

株式会社^{こうき}宏機製作所

代表取締役社長 大賀 奉昭 氏



守谷市に本社を構える株式会社宏機製作所は、1984年に創業し、自動車のプラスチック部品成型加工やフィルム加飾成型をはじめ、産業用加湿器や食品加熱機などを製造しています。

同社は既存事業を大切にしながらも、新たな事業の展開に果敢に挑戦しており、フィルム加飾成型の分野で唯一無二となることを目標に掲げ、企業ブランドの向上を目指しています。

徳島県出身の同社社長の大賀氏に、故郷の思い出や起業までの道のり、社員への想いや今後の事業戦略などをお伺いしました。

インタビュー日：2018年2月23日
〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕
〔文・写真：筑波総研(株) 研究員 富山かなえ〕

企業概要

本社・工場：茨城県守谷市百合ヶ丘1丁目2411-2
第二工場：茨城県守谷市立沢字東萩久保1784-1
設立：1984年5月31日

従業員：67名

事業内容：自動車のプラスチック部品成型加工、
フィルム加飾成形、産業用加湿器・
食品加熱機の製造

ご出身地や故郷に対する想い、ご略歴などをお聞かせください。

■ 故郷・徳島県への想い、今なお熱く

故郷・徳島県は山が多い土地で、私は四国で2番目に高い、標高1955mの剣山の麓、美馬郡つるぎ町貞光で生まれ育ちました。

隣町の美馬市は日本で数少ない「うだつ(※)の町」として知られるほか、徳島県は日本三大盆踊り「阿波踊り」発祥の地としても有名です。

私の故郷に対する想いは今なお熱く、守谷市内の有志と「守谷ひょうたん連」を結成し、毎年「南越谷阿波踊り」に参加しているほどです。



故郷・徳島の地理を説明する大賀社長(右)

■ 日本最古の化学専門企業に入社

私は地元の中学校を卒業後、鴨島商業高校（現吉野川高校）に入学しました。毎朝、早い時間の電車に乗り込み、約1時間かけて通学しました。車内では勉強に励む同級生を良く見かけ、私はその姿に大変刺激を受けていました。

高校では、商業簿記と進路指導でお世話になった先生から多くのことを学びました。先生にはそろばんや簿記などの知識だけでなく、礼儀作法なども厳しく指導していただき、人として大きく成長させていただきました。

高校を卒業した私は、先生からの薦めもあり、1963年に森六商事株式会社へ入社しました。森六は、1663（寛文3）年に阿波（徳島）で「阿波藍」を取り扱った日本最古の化学専門企業です。現在は森六ホールディングス（本社：東京都港区）として、国内外の化学工業の発展に貢献しています。

※「うだつ」とは隣家との境界に取り付けられた土造りの防火壁のことで、これを造るには相当の費用がかかったため、裕福な家しか設けることができませんでした。すなわち「うだつが上がる」ということは富の象徴であり、「うだつの町並み」は当時の繁栄を物語っています。(出典：徳島県・(一財)徳島県観光協会HP)

■ 「やればできる」強い意志で業務を遂行

森六に入社した私は、東京本社へと配属されました。私は商業高校卒であることから、経理担当になると考えていましたが、予想は外れ、合成樹脂の営業担当に任命されました。

周りは大卒者や東京出身者もおり、高卒で田舎者の私は「彼らに絶対負けたくない」、そして、先生からの教え「やればできる」という強い意志を持ち、営業マンとして関東一円や新潟県を駆け巡りました。その甲斐あって、私は人脈を広げ、営業成績も伸ばしていきました。

その後、会社は新たな事業として自動車部品のプラスチック成型加工事業を開始し、私もこの業務の一端を担うようになっていきました。

プライベートでは3人の子宝にも恵まれ、順風満帆な日々を過ごしていました。お盆で徳島に帰省した際、「この故郷で子どもたちを育てたい」という想いが芽生え、思い切って徳島への転勤願を提出し、無事に徳島支店への辞令が出されました。

しかし、「一度切りの人生、田舎で良いのか」と思い直し、再度、大阪支店への変更を申し出たところ、「勝手なことを言うな」と上司の逆鱗に触れ、私も頭に血が上り「9月で退職します」と、若気の至りで15年間勤めた会社を後にすることになりました。

起業までの経緯や会社を軌道に乗せるために工夫なされたことなどをお聞かせください。

■ 化学材料の知識と成型技術を武器に起業

森六を退職後、営業時代に知り合った方から「うちに来ないか」と嬉しいお誘いをいただきました。しかし、前職に迷惑をかけたくなかったため丁重にお断りし、今までの経験が活かせる職場を探しました。

そして、千葉県流山市に工場を構える金属・プラスチック成型加工会社に入社しました。私は化学材料の専門知識は豊富でしたが、現場に関わる機会は少なく、40台もの成型機を揃える同社では多くの技術を学ばせていただきました。

その後、私は今まで培った化学材料の専門知識と成型加工の専門技術を活かした会社の立ち上げを決意し、1984年、守谷市の現住所に株式会社宏機製作所を設立しました。

「好機」をとらえ、ものづくりに励む会社

社名・宏機製作所は「工場を作って広く多くの人が集まり、好機をとらえて懸命に働き、新しいものづくりに挑戦することで社会に貢献する」という想いを込めました。

宏の「㈬」は工場、「宏」は広く多く人が集って会社を大きくする、「機」は機会やチャンス、「製作所」は懸命に働いてものづくりを進める、という意味を表現しています。

また、当社はお客様、社会から「ものづくりで存在を期待される会社」になることを目指し、「良い製品を、安く、早く作る」ことを経営基本方針に掲げ、社員とともに日々精進しています。



同社の主力製品の1つ(自動車やバイクのミラー)

事業の幅を「宏」げ、さらなる展開を目指す

創業時は資金も仕事も少なく、大変苦しい期間を過ごしました。知り合いの成型企業から簡単な成型業務などを請け負った時期もありました。

1986年3月、前職でお世話になったお客様から、私の会社にプラスチック成型加工をお願いしたいという申し出がありました。私が退職した後、不良品が相次いだというのです。

お客様の意向により、仁義を切ってその業務は当社へと移管することになりました。そのおかげで売上は一気に年商3億円になり、経営を安定化させることができました。

当時から数年前までは、自動車のプラスチック部品成型加工に関わる業務が多かったのですが、現在は「医・食・住」関連にも力を入れています。

例えば、病院や空港などで使用される産業用加湿器をはじめ、コンビニなどに設置されている食品加熱機など事業の幅を「宏」げています。



成型機械の性能を説明する大賀社長(中央)

御社の新技術を活かした製品、今後の事業戦略などをお聞かせください。

世界初・金属メッキ代替フィルムを発明

当社は主力技術の1つである「フィルム加飾成型技術」を応用し、“世界初”となる新しいフィルムの開発に成功しました。

近年、自動車のドアの取っ手に触れるだけで施錠・開錠できるシステムが開発されました。感知センサー付近は、誤作動防止のため非電導性の部材を用いる必要があります。しかし、今までは電導性のある金属メッキを使用した取っ手が主流で、積極的なシステムの採用には至りませんでした。

そこで、当社は取締役の大賀営業技術部長を筆頭に様々な研究を重ね、遂に、優れた耐ガソリン性、成形性、耐候性を保有した「金属メッキ代替フィルム」を発明しました。

現在、このフィルムはHONDA車に採用され、快適な車作りを後押ししています。今後は、機能やデザイン性に優れたこのフィルムを様々な製品に活用していきたいと考えています。



「金属メッキ代替フィルム」を説明する大賀祐一取締役営業技術部長

社員への想いや人財育成の取り組みについてお聞かせください。

「会社の真の姿」を社員に見せる

当社は、1991年の第8期から毎年「経営指針書」を作成し、全員参加の発表会を4月に実施しています。

1990年、知り合いから千葉県中小企業家同友会が開催する勉強会に誘われ、そこで私は経営指針書という存在を初めて知りました。また、その勉強会では「会社をモーターボートに例えると、油を積み航海に出ても、油が無くなった時点で終わりである」と言われました。

この時は何を意味しているのかわかりませんでした。後、「会社がどこに行きたいか、何を成し遂げたいのか、目的地に着くための羅針盤と航海図が必要であることを社員にしっかり伝えなければならない」というメッセージであると気付きました。

その後、私は経営指針書の重要性を感じ、同友会が主催する指針書の作り方を習得できる3泊4日のセミナーに参加し、20社以上の資料を読み込んで自社の経営指針書を作成しました。

翌年の1991年から、当社は経営指針書の発表会を継続していききましたが、目標と実績のギャップで、何度もやめようと思いました。しかし、セミナーなどで出会った経営者仲間の熱意や夢に啓発され、現在まで続けることができています。

2006年、経営指針書から「事業計画書」への名称変更を機に、社員や幹部も作成に参画しています。私は右手に事業計画書、左手に就業規則を持ちながら、「会社の真の姿」を見せ、社員をねぎらい、感謝を伝え、社員のさらなる原動力を生み出していきたいと考えています。

「事業は人なり」

当社は人事理念として「事業は人なり」と掲げ、社員教育にも力を入れています。

特に新入社員研修では、成型技術など業務に関する知識を教えるだけでなく、当社が独自に作成した「社内研修マニュアル」を用いて、「真のプロフェッショナルになるための極意」をはじめ、「成功人生を送るための十ヶ条」「可能思考の身に付け方」など、人間力を高める大切さも伝えています。



工場内でこれからの夢を語る大賀社長(右)

最後に、今後の夢をお聞かせください。

当社の技術力とブランド力を世界へ

ものづくりの環境は、世界中で日々刻々と予想ができないほど大きな変化を続けています。

当社は既存事業を大切にしながら、新たな事業の展開にも積極的に力を入れることで、フィルム加飾成型の分野で唯一無二の存在となることを目指し、社員とともに日々精進しています。

今後はさらに当社の技術を「宏」く世界へ羽ばたかせることで、当社のブランド力を向上させていきたいと考えています。

これからも、私は社員と一緒に会社という「モーターボート」に乗り込み、「羅針盤」と「航海図」である事業計画書を片手に、企業ブランドのステップアップに向けて邁進して参ります。

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。



第二工場の前で

大賀代表取締役社長(中央)、筑波銀行守谷支店
海老根支店長(左)と聞き手・藤咲耕一